



ライオンズクラブ国際協会330-A地区

キャビネット事務局 〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-36-6 ダイナシティ西新宿1F
TEL. 03-5330-3330 FAX. 03-5330-3370 E-mail: cab@lions330-a.org URL: http://330a.jp

2019年9月4日

ライオンズクラブ国際協会330-A地区
各クラブ会長・幹事・メンバー 各位

ライオンズクラブ国際協会330-A地区
ガバナー 伊賀 保夫
GST献血・献眼・献腎・骨髄移植委員会
委員長 柳井 健一

ライオンズクラブメンバーの献血へのご理解とご協力について

拝啓 残暑の候、貴クラブ並びにメンバー各位におかれましては益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

各クラブで献血をアクティビティとして取り上げ、実施して頂いているクラブ様には御礼申し上げます。

さて、献血におきまして、当委員会は東京都赤十字血液センターと各種の情報交換をしながら、ライオンズの奉仕の一つとして皆様方へその情報を提供できるよう考察しております。

過日東京都赤十字血液センターより、「高齢化に伴い、輸血を受ける人の割合が高くなっていくため血液が不足しており、その原因が特に若い世代の方々（10代～20代）の献血が減少している」とのお話がありました。

その実態を添付の資料に掲載してありますので、是非ご高覧頂き現状を把握頂きたくお願い申し上げます。

そして、ライオンズのメンバーより、お子様やお孫様、又はお知り合いの10代・20代の若い方々に献血のお声掛けをして頂き献血ルームへ足を運んで頂きたいと思っております。

現在、献血ルームは都内に13か所ございます。どの場所での献血でも結構ですが、ご協力頂く場合は、添付ご案内の「10代・20代献血ご協力のお願い」をご持参頂き、末尾の欄にライオンズクラブ名をご記入の上ご来場頂きたくお願い申し上げます。

敬具

お問合せ先 : GST献血・献眼・献腎・骨髄移植委員会
副委員長・献血ファシリテーター 川島 富美子
090-9143-0462
又は 委員長 柳井 健一
090-1508-8249

330-A LIONS CLUBS INTERNATIONAL

CABINET OFFICE DYNA CITY NISHISHINJUKU 1F, 1-36-6, KITASHINJUKU, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0074 JAPAN
TEL. 03-5330-3330 FAX. 03-5330-3370 E-mail: cab@lions330-A.org URL: http://330a.jp

330-A 地区ライオンズクラブの皆様へ（献血ご協力のお願い）

東京都赤十字血液センター

日頃より献血へのご協力・ご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。

近年、10代・20代の献血ご協力者数が非常に減少しており、今年度は例年以上に少なくなっております。つきましては、お子様、お孫様へお声掛けをいただき、献血へのご協力をいただきたくお願いいたします。

緊急の

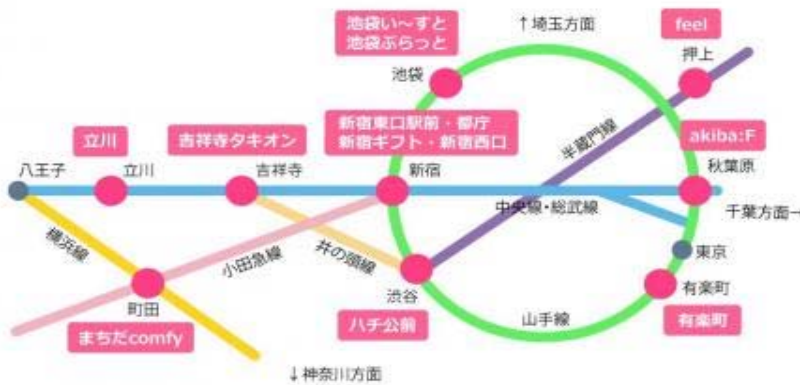
10代・20代

献血ご協力のお願い



大変恐縮でございますが、ライオンズクラブの皆様のお子様・お孫様など若年層の方々へのお声掛け・献血協力を何卒お願い申し上げます。ライオンズクラブ主催等による献血バス等での会場実施が直近に控えておりましたら是非そちらへのご動員を、それ以外の皆様は下記献血ルームへ献血のご協力を賜りたく、何卒お願い致します。

★協力期間：9月1日（日）～12月30日（月）



左記 **13か所**に献血ルームがございます。
※大変恐縮でございますが、受付時間等は各ルームのHPをご覧ください。
またあわせて採血基準も事前にHP等でご確認いただけますようお願いいたします。

ご協力いただく際は、受付にてライオンズクラブご関係者であることをお伝えください。

「ご紹介元等のライオンズクラブ様名」・「人数（お連れ様等含む）」をお伺いさせていただきます。

*後日ライオンズクラブ様毎に集計してご報告をいたします。

*本状をご持参いただく場合は、下記記入欄にライオンズクラブ名のご記入をお願い致します。（コピー可）何卒宜しくお願い致します。

【ご紹介元等のライオンズクラブ名ご記入欄】

<ご不明な点等のお問い合わせ先>

東京都赤十字血液センター

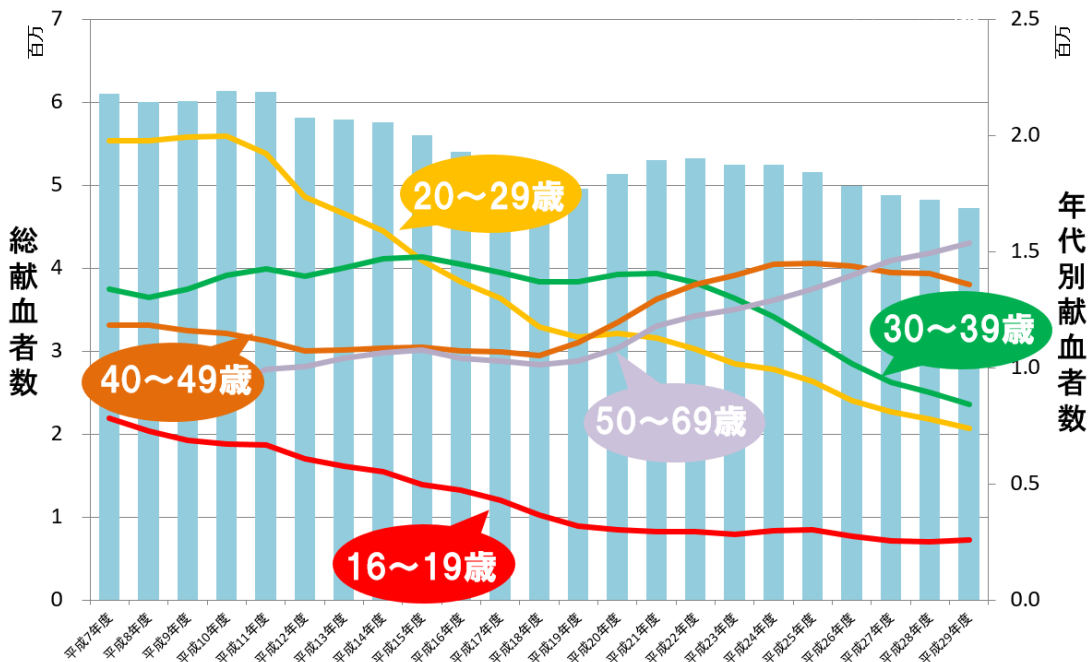
献血推進課 推進係 03-5272-3523

10代・20代の献血状況について

病気やけがの治療に必要な血液は、皆様の善意による献血によって支えられています。しかし、現在、若い世代の献血者の減少が続いており、将来、血液不足となる恐れがあります。特に若年層（学生含む）10～20代の献血者の減少傾向が顕著です。

輸血を受ける人の約85%は50歳以上で、多くは「がん治療」を中心とした病気治療に使われています。

高齢化が進むにつれ、輸血を受ける人の割合が高くなっていくため、血液が不足しないよう、特に若い世代の方々に献血へご協力していただく必要があります。



患者さんから献血者の皆さんへ



Fさん

余命一週間の宣告から、幸せな人生を送れているのは献血のおかげです。

19歳の時なんですけど、サンマの骨が歯茎に刺さって、抜いたら血が止まらなくなって病院へ行ったんですね。そこで急性骨髄性白血病と言われて、このままだとあと一週間の命ですと宣告されました。

半年かけて治療して、退院できたんですけど、その三年後に再発しました。彼女と結婚式を挙げて、ちょうど一週間後だったんですけど、また入院して治療を受けました。

輸血を受けたのは、1回目で20本以上、2回目でも15本くらいだったので、本当に献血の大切さを思い知りました。

献血がなかったら、治療自体も進まないし、それで命が助かったんで……。

結婚をして、子どももできて、幸せな人生を送れるのは献血のおかげだと思います。

「急性骨髄性白血病」

